

シンポジウム4

献血受入れ体制の見直し

中島信雄(宮城県赤十字血液センター)

北海道に次ぎ事業エリアの広い東北ブロックでは、採血から製造までの時間の制約を考慮し、従来から成分献血については、製造所に近いセンターは新鮮凍結血漿製造用の血漿を、遠方のセンターは血小板を優先して採血するなど、ブロック内の「採血役割分担」を進めてきた。全血献血については、各県との協議のもと、各県の供給計画に見合う血液を県内で確保する献血受入計画(採血計画)を策定してきた。

しかし、たとえば秋田県は、人口に対する献血率はブロック内で最も高いものの、移動採血1稼働当たり献血者数は全国的に低い一方で、人口当たりの血液使用量はブロック内で最も多く、県単位で必要量を確保するために非効率な稼働を増やさざるを得ないなど、事業運営上の課題となっていた。平成27年度の移動採血1稼働当たり献血者数は、全国平均の44.0人に対して東北ブロックは37.9人であり、稼働効率改善が急務であった。

日本赤十字社では、事業改善に向けた取り組みとして「国や地方自治体に対してブロック単位または全国単位での採血計画策定への理解を求める」(平成27年6月血液事業本部長通知)こととした。これを受けて、東北ブロックでは、平成28年度献血受入計画策定に当たり、従来の「県内で必要な血液は県内で確保」する体制から、「ブロック内で必要な血液はブロック内で効率的に確保」する体制への転換を図ることとした。

ブロック内の一部の地方自治体からは「県内で必要な血液は県内で確保すべき。他県で確保できる保証はない。」「都道府県献血推進計画を決めるのは県であり、血液センターではない。」「どんなに

献血者数が少なくても移動採血を実施すべきで、効率を考える必要はない。」との意見が寄せられたが、「東北ブロックでは広域事業運営が不可欠であること。」「採血事業者は法令等で効率化および合理化が求められていること。」「厚生労働省から各都道府県に対して血液確保量の都道府県を越えた調整への配慮を求める文書が発出されたこと。」等を説明して理解を求めた。

その結果、平成28年度は広域事業運営体制のメリットを活かして、各県の供給計画を基本としつつ、献血可能年齢に近い生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合を50%加味し、人口の多い県の採血割合を高くすることとして献血受入計画を策定した(表1参照)。

平成27年度実績と平成28年度計画とを比較すると、ブロック内に占める生産年齢人口割合に比して全血採血の割合が高かった秋田県および福島県の採血割合が低下し、逆に生産年齢人口割合の高い宮城県の採血割合が高まって、ブロック内の平準化が図られた(図1参照)。

平成28年度上半期の実績では、全国平均水準には及ばないものの、対前年度同期比で移動採血1稼働当たり献血者数は増加(平成27年度:38.1人→平成28年度:40.4人)し(表2参照)、移動採血車稼働台数は減少して(表3参照)、稼働効率向上の改善効果が現れ始めた。

過疎化、少子高齢化が進む中、とくに東北ブロックにおいては、血液の安定供給と持続可能な事業運営体制確立のために広域事業運営は不可欠であり、今後さらに各県、各市町村との連携を深め、ブロック一体となった事業運営を推進していきたい。

表1 平成28年度東北ブロック赤血球製剤供給計画割合および全血献血受入計画割合

| | 青森県 | 岩手県 | 宮城県 | 秋田県 | 山形県 | 福島県 | ブロック合計 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 供給計画割合 | 15.3% | 13.5% | 21.9% | 13.0% | 11.2% | 25.1% | 100.0% |
| 生産年齢人口割合 | 14.5% | 13.9% | 27.1% | 10.9% | 12.1% | 21.5% | 100.0% |
| 献血受入計画割合 | 14.9% | 13.7% | 24.3% | 12.0% | 11.7% | 23.4% | 100.0% |

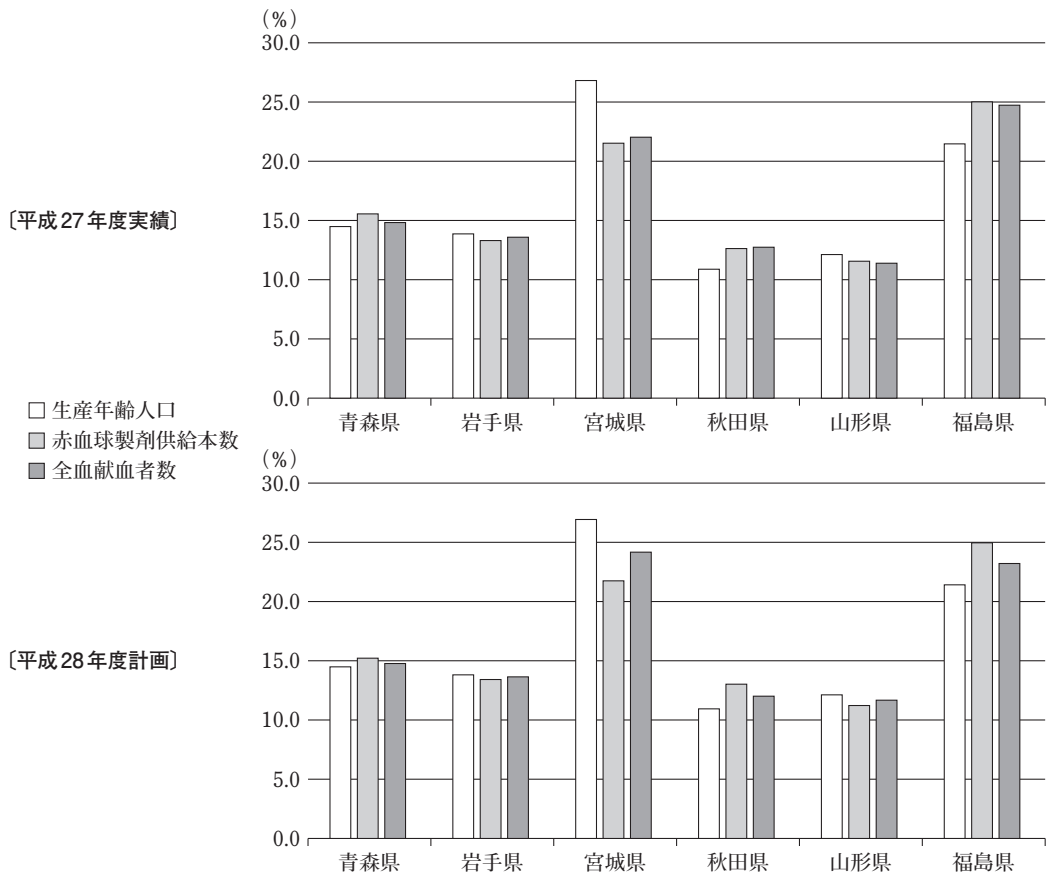


図1 生産年齢人口・赤血球製剤供給本数・全血献血者数構成割合

表2 移動採血1稼働当たり献血者数(4月～9月)

| | 青森県 | 岩手県 | 宮城県 | 秋田県 | 山形県 | 福島県 | ブロック平均 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|--------|
| 平成27年度(人) | 38.8 | 35.4 | 43.6 | 33.6 | 40.6 | 36.9 | 38.1 |
| 平成28年度(人) | 40.1 | 35.6 | 41.9 | 40.3 | 41.0 | 42.2 | 40.4 |
| 増 減(人) | +1.3 | +0.2 | -1.7 | +6.7 | +0.4 | +5.3 | +2.3 |

※オープン採血を含む。

表3 移動採血車稼働台数(4月～9月：1カ月平均)

| | 青森県 | 岩手県 | 宮城県 | 秋田県 | 山形県 | 福島県 | ブロック合計 |
|-----------|------|------|------|-------|------|-------|--------|
| 平成27年度(台) | 49.5 | 63.0 | 70.0 | 52.5 | 48.3 | 114.0 | 397.3 |
| 平成28年度(台) | 46.7 | 60.0 | 69.7 | 41.0 | 48.3 | 90.2 | 355.8 |
| 増 減(台) | -2.8 | -3.0 | -0.3 | -11.5 | ±0.0 | -23.8 | -41.5 |

※オープン採血を含む。